

2019.9.26(木)  
第12回例会  
(通算 3565回)

# 2019-2020年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「CONNECT！ロータリーをよく知ってより大きい輪をつくらう！」

第83代会長	天方 智順	例会日	毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
副会長	後藤 公貴	例会場	釧路センチュリーキャッスルホテル
幹事	松井 聖治	事務局	釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
編集責任者	クラブ会報雑誌委員会	☎	0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2019-2020年度  
国際ロータリーテーマ



2019-2020年度 RI 会長  
マーク・ダニエル・マロニー  
第2500地区ガバナー  
吉田 潤司 (釧路 RC)

月間テーマ

基本的教育と識字率向上月間

本日のプログラム

NHK のオリンピック・パラリンピック放送 (担当：プログラム委員会)

次週例会

ガバナー公式訪問例会 (担当：理事会)

■ロータリーソング：「それでこそロータリー」

■ソングリーダー：池田いずみ君

■会員数 100名

■ビジター なし

■ゲスト なし

■ニコニコ献金

白崎 義章君・・・葬儀のお礼

今年度累計 194,000円

## 会長の時間

天方 智順会長



皆さん、こんにちは。お食事をされている方はそのままお続けください。今日、お話しいただく武久会員の前説みたいなお話しになります。

個人的なことで、リビングのテレビがすごく大きくなって、やっぱり技術の進歩がハードの問題、ソフトの問題、両方あると思いますけれど本当にきれいな映像が見られて私は本当に嬉しくなっています。

例えば、プロ野球・高校野球で、さすがに実場面ではないですけどスロービデオになったときにピッチャーがこうやって指を切るときのローズンがパッと舞うのが見えます。今まではなかった世界で、すごいものだなと。反対に、大好きな女優さんを「きれいだな」と思っていたら「ちょっと肌が荒れていますね」とか、大物演歌歌手の顔にちょっとシミが透けて見えたりします。昔のCMで言えば「見え過ぎちゃって困るの」みたいなことになっていると思います。

先週も申し上げましたが、ラグビーワールドカップの試合を見ると、あれも迫力ですね。そして、先日終わりました大相撲の秋場所、画面が大きくなったこと

とは関係ないと思いますが、音が良くなった気がします。これは中継をされるNHKさんの努力の結果でしょうが立ち会いの“バシン”と力士同士がぶつかる音にすごく迫力があって良いなと思います。

そんな前説をして、武久会員にプレッシャーを与えるわけではないのですけれども、今日はよろしく願いしたいと思います。

もうひとつ、先日、白崎義章会員にお会いいたしました。「なかなかお仕事がお忙しくて行けなくて本当に申し訳ない。皆さんによろしくお伝えください」ということでした。そして、故白崎功一名誉会員の件に関しては、皆さんに本当にお世話になったということで、お志をいただいておりますので、ここでご報告いたします。

それでは、今日もよろしく願いいたします。

## ■本日のプログラム■ NHKのオリンピック・パラリンピック放送

プログラム委員会 池田 いずみ委員長

プログラム委員会の池田です。こんにちは。本日は、NHK釧路放送局長・武久会員に『NHKのオリンピック・パラリンピック放送』についてお話しをいただきます。

武久会員は、昨日、札幌出張だったのですが、本日

のために日帰りでお帰りいただきました。  
では、武久会員、よろしくお願ひいたします。

## NHK釧路放送局 武久 普治局長

皆さん、こんにちは。8月に皆様のお仲間にお加え  
いただいですぐ、  
このような大役を  
任されるとは、さ  
すがロータリーは  
厳しいと感じて  
おりますが、本日  
は『NHKのオリ  
ンピック・パラリ  
ンピック放送』と題してお話しをさせていただきます。  
最初に質問なのですけれども、東京2020オリンピック  
の観戦チケットを既に入手された方は挙手をお願いします。  
かなり、やっぱりいらっしゃいますね。おめで  
とうございます。



私、自宅が東京の晴海の選手村のすぐ近くにありま  
すので、近くのベイエリアでありあまり人気がない競技を  
いくつもみようと画策していましたが、チケット  
購入締め切りの直前に釧路行きが決まりまして、赴  
任すると3年は帰って来られませんし、オリンピック・  
パラリンピック期間中にお休みをいただくことも局長  
という立場から難しいと判断しまして、泣く泣く申し  
込みを断念したという経緯がございます。ラッキーにも  
入場券をゲットされた方は、うらやましい限りです  
けれども、ぜひ国内でのスポーツと平和の祭典をお楽  
しみいただきたいと思ひます。

さて、私はNHKの報道、なかでも映像製作という  
業務で1986年からこの仕事をやっております。主に  
ニュースの製作を担当してきましたけれども、1993  
年から4年間、今から20年以上前ですけれども本部  
のスポーツ報道で勤務をしておりました。その間、  
1994年のリレハンメル冬季五輪、1996年のアメリ  
カ・アトランタ夏季五輪、1998年の長野冬季五輪で、  
現地でのニュース製作を担当いたしました。中でも初  
めての体験となった五輪体験は、ノルウェーのリレハ  
ンメルを忘れられません。

リレハンメルは、北緯61度に位置する人口25,000  
人の街でありまして、五輪が開催された都市としては  
最も北に位置しております。釧路市が北緯42度です  
からかなり北です。ただし、暖流の影響で日中の平均  
気温は真冬の1月でも氷点下9度ぐらい、釧路の平均  
が氷点下5度ですからあまり変わらないかと、主な産  
業も木材・製紙・観光とよく似ております。私は南の  
方の人間ですので、このリレハンメルで初めて氷点下  
25度を体験いたしました。本当に鼻毛が凍る寒さが  
初めてわかりました。これから釧路でそれを体験でき  
ると思うと非常に楽しみです。

その寒さの中で、地元の方々老若男女お会いした全  
ての方々私たちが東洋人を含む全ての来訪者を心から  
歓迎し、オリンピックの開催を心から喜んでいらっ  
しゃいました。これこそスポーツと平和の祭典なのだ  
と実感した次第です。

現在、好評放送中の大河ドラマ「いだてん」は、真  
に戦後復興の中でオリンピックを自国で開催しよう  
という物語なのですが、前回の東京五輪から半世紀あ  
まり、再びスポーツと平和の祭典を東京に迎えること  
になったわけです。

さて、前回55年前の東京オリンピックは、お茶の  
間でオリンピックを楽しめるようになった記念すべき  
大会でもあります。先ほどお話しした『いだてん』で  
は、1932年のロサンゼルス五輪での日本勢の活躍を  
ラジオで伝えておりましたけれども、1964年の東京  
では、その伝え手がテレビに移行してきました。  
1936年ベルリン五輪の「前畑がんばれ」は、つい最  
近も『いだてん』で放送しましたけれども、五輪放送  
が黎明期の実況の語り草になっております。それを映  
像とともに伝えた1964年の前回の東京大会は日本国  
民に鮮烈な印象を与えたと言えます。残念ながら私は  
このとき2歳でありまして、後になって「家族で見た  
よ」と母親から言われましたけれども、ほとんど記憶  
がございません。以後、オリンピック放送は、感動と  
記憶を視聴者の皆様にお届け続けてきました。

私が個人的に忘れられないのが、1984年のロサン  
ゼルス大会の柔道、その当時は無差別級決勝の山下泰  
裕、いまのJOC会長であります。それとエジプト  
のモハメド・ラッシュワンの戦いでありました。右足  
の肉離れに見舞われた山下選手、あえてその右足を攻  
撃しなかったラッシュワン選手、最後は押さえ込みで  
山下選手が金メダルに輝きましたけれども、この試合  
は五輪史上に残るフェアプレーと評価されております。

個人的な忘れられない選手はオリンピックの申し子  
ともいえるのがアメリカのカール・ルイスです。  
1984年のロサンゼルス大会の男子100m、金メダル  
で鮮烈にデビューし、以降1988年のソウル大会、  
1992年のバルセロナ大会、1996年の自国開催のア  
トランタ大会に至る4大会で、金メダル合計9個を獲  
得しました。私は、最後のアトランタ大会で少なから  
ず衰えが見える中で、走り幅跳びで五輪最後のメダル  
を獲得するそのルイスの姿を追ったりレポートを作りま  
したけれども、この大会では、サッカーの日本代表男  
子がブラジルを倒した『マイアミの奇跡』が余りにも  
騒がれて、クローズアップされなかったことが心残り  
であります。

さて、先日1972年冬季五輪で「日の丸飛行隊」と  
してジャンプ・ノーマルヒルで銀メダルに輝いた金野  
昭次さんがお亡くなりになりました。心よりご冥福を

お祈りいたします。

金野さんらが表彰台を独占した札幌大会から22年後、先ほどお話ししたリレハンメル大会で金野さんらの後輩たちが銀メダルに輝きました。西方仁也・岡部孝信・葛西紀明・原田雅彦の4人は2本目3人目までトップに立っていました。私はこの試合だけはこの目で見たいと業務を抜け出して、ジャンプ台の下までまいりました。そして最後のジャンパー・原田のジャンプを見守りました。ですから、放送実況での「原田、落ちた」は聞えなかったのですけれども、実際に原田が落ちたのをこの目で目撃いたしました。しかし、日の丸飛行隊は4年後の自国大会・長野大会で見事に金メダルに輝きました。そのときの原田選手の「ふうなきい〜!」も流行語になりました。私はこのとき、ジャンプ台の横に設営されたプレハブのハウスで寒さに耐えながら業務に当たっておりましたけれども、よくよく考えると、こんなにも冬季五輪と深い関わりがある私が北海道釧路に赴任することは、これは運命的だと



しか言いようがありません。

夏季五輪に話を戻します。その後も、オリンピック放送が名実況、それから名セリフとともに見る人々の

記憶に残っていきます。1992年のバルセロナ大会の女子マラソンで銀メダルに輝いた有森裕子選手、4年後のアトランタ大会でも銅メダルを獲得しました。そのとき残した「初めて自分で自分をほめたい」、これ、私も感動して忘れられない言葉です。

言葉ではありませんけれども2000年のシドニー大会。「Qちゃん」で親しまれた高橋尚子選手が36km地点でサングラスを投げ捨てました。これはのちのちの情報取材でわかったのですが、残り5kmの勝負を自らに宣言したシーンで、このときのマラソンの瞬間最高視聴率は59.5%に達しました。

それから、2004年のアテネ大会では記憶に残る名実況が生まれました。体操の男子団体が28年振りの金メダルに輝いたとき、NHK・刈屋富士雄アナウンサーが残した「伸身の新月面が描く放物線は、栄光への架け橋だ!」。私は当時、静岡放送局に勤務していて、後輩を現地アテネへ送り出しておりました。このため眠い目を擦りながらのテレビ観戦ですけれども、後輩を送り出している以上にこの体操男子団体チームに静岡市出身の水鳥寿思さんがいたため、地域ニュースでワイドに伝えるために徹夜で作業にあたっておりました。今の働き方改革の現状からいうと考えられないくらい激務で、長くスポーツ報道に関わってきましたけれども、実況に感動し涙したのはこれが初めてかもし

れません。

ちなみに、私は現地から帰国した水鳥選手を訪ねてお祝いをしたのですが、その際、初めて金メダルにも触らせていただきました。その感触は、いまでもこの手に残っているような気がいたします。

その後もオリンピック・パラリンピックでの日本人選手の活躍は続いています。そして迎える『東京2020オリンピック・パラリンピック』は、それぞれご覧のような日程で開催されます。今日の時点でオリンピック開催まで302日であり、パラリンピックまで334日。いよいよ迫って来ました。

今日は、『NHKのオリンピック・パラリンピック放送』と題してお話しをしております。テーマに沿ってお話しする前に、果たしてNHKが来る東京2020オリンピック・パラリンピックでどのような放送サービスをお届けするかを詳しくお伝えすべきなのですが、実はまだNHKとして具体的なサービスを細かく発表していません。私は6月まで東京渋谷の本部におりましたので、ある程度は分かっているつもりなのですが、釧路局長の分際では会長発表に先んじて内部情報をお示しできませんので、今回はお話しできる内容に限ってお話しすることをご容赦ください。

今年の7月4日にNHKの上田会長が発表した東京オリンピック・パラリンピック放送サービスについてのNHK視聴者への4つの約束です。

約束の1つ目は、「スタジアムの興奮を日本全国で体感できます」です。最高水準・史上最大規模の放送でオリンピック・パラリンピックを余すところなく伝えます、という内容であります。

2つ目は、「いつでもどこでも決定的瞬間をお届けします」です。放送に加えてデジタルやインノベーティブなサービスを活用して決定的瞬間をどこにいても見逃すことがない、という内容であります。

3つ目が、「日本をひとつにつなぎます。日本が世界につながります」です。これは聖火リレーや各種イベントを通じて日本の魅力を世界に発信するものです。

最後の4つ目が、「共生社会の実現に貢献します」です。これはパラリンピックの理念である共生社会の実現を、放送サービスを通じてお示するという内容であります。

NHKはこの4つの約束をつうじて2020年、そしてさらにその先の時代を見据えた公共メディアとしての未来の放送サービスの姿をお示します、としております。

いまご説明できるその壮大な将来の放送のあり方のヒントとなる取り組みをご紹介します。

4つの約束を果たすための舞台が、まず2020年の3月から始まる聖火リレーであります。NHKでは、全国で行われる聖火リレーの様相を放送はもちろんの

ことインターネットで発信する計画です。ご覧いただいているのが現段階での聖火リレーのルートです。3月26日に福島をスタートした聖火が全国を回ります。その各地で地元の放送局と連動して聖火リレーの様子をワイドにお伝えします。イベントと連動する取り組みも行う計画です。これをご覧になって「北海道は1か所だけか」とご不安になっている方もいらっしゃいますがご安心下さい。聖火は釧路・根室にもやっています。正式な聖火ルートに加えて、赤と青で示された地域には「親子の火方式」による「子どもの火」がリレーされることになっております。これは北海道があまりにも広い採用された方式です。北海道以外では東京都の島嶼部（とうしょぶ）で同様の親子の火方式が採用されているようです。釧路・根室でも2020年6月14日に聖火がリレーされる予定です。私たちNHK釧路放送局もこの聖火リレーを活用して地域を盛り上げて、貢献する取り組みを現在検討しているところですのでぜひご期待ください。

もうひとつ、NHK視聴者への4つの約束で示した最高水準の放送の核となるのがスーパーハイビジョン、いわゆる『4K・8K』です。先ほど会長にもお話いただきましたけれども、最近、あちこちで見られるようになってまいりました。インターネットを軸としたデジタル、イノベーティブなサービスを新たに展開するのに対して、4K・8Kは従来の放送サービスの最高水準の形と言えます。すでに本放送が開始されておりますのでご覧になった方もいらっしゃると思いますが、ここでは8Kの魅力を簡単にご説明いたします。

通常のハイビジョン、一般的にいう2Kですが約200万画素です。4Kは4倍の800万画素、8Kに至っては16倍を超える3,300万画素になります。この違いはわれわれNHKで働く人間は、「まずご覧になってください」としか言えないのですけれども、難しい説明を図にしましたのでご覧ください。

この美しい女性の目元をご注意ください。ハイビジョンではボケた感じになるのですけれども、ボケたものもきれいな感じもしますけれども、やっぱり8Kになると走査線の数が大幅に違いますので、くっきりと表示されていることがわかります。一方で最近「4Kは暗い」というご指摘をいただくことがあります。いまご説明しているのはフルスペックでの比較でして、現在のスーパーハイビジョン放送の中には画像を圧縮してお届けしているものもございます。そうしたものには一部暗くなることも報告されておりますけれども、フルスペックで放送を受信した際は、このように違いがハッキリわかると思います。

音響的にも従来のハイビジョンと大きく異なります。

4Kは「5.1チャンネルサラウンド」、8Kは「22.2 マルチチャンネル」によって全方向からの音を

再現することで、まるでその場にいるかのような臨場感や迫力を体感することができます。

先ほどお褒めいただいた大相撲のぶつかりの音も、新しい放送のために収録した音を4K・8Kでご覧いただくと、より臨場感を楽しめることになっております。

具体的な放送計画はまだ発表されておりませんが、視聴者の皆様の関心がある競技を軸に魅力的な番組をお届けすることになっております。ぜひこうした4K・8Kで来たるオリンピックをお楽しみいただければと思います。

NHK釧路放送局の中には、ご説明した8Kを楽しめるシアターをご用意しています。『8Kタンチョウスタジオ』といいまして、玄関ロビーを入ると左側でございます。ここでは、高精細な画面と共に、先ほどお話しした22.2マルチチャンネルの音声を堪能できます。私はオリンピックではなくラグビーワールドカップ日本の初戦をこっそりこのタンチョウスタジオで、時間を延長して1人で楽しませていただきました。4Kでしたけれども、4Kの素晴らしさを皆さんにお伝えするために3時間ぐらい見ていましたけれども、4Kでも素晴らしいです。今度28日の日本対アイルランド、なかなか厳しい試合ですけれども、今大会で初めてスーパーハイビジョンの8Kで放送します。これ、ヤマダ電器へ行っても8Kを見られないので、できればその時間を開けておくようにしますので、お越しいただいてご覧いただければと思います。この8Kの素晴らしさをぜひ体感していただきたいと思います。

ちなみに、8Kの放送をこの28日の放送以降は、10月末の準決勝と11月の決勝の2試合だけしかございません。それも時間が夜になりますけれども局長権限でオープンして、皆さんに見てもらおうようにしようと思っておりますので、その際はお知らせしますのでぜひお越しください。詳しくは釧路放送局の放送やホームページでお知らせいたします。

それから、お世話になっているJR釧路の萩原さんと、いまやっていることです。来月、JR釧路の釧路駅で新しい待合室がオープンします。そこにNHKの8Kモニターを設置するための工事が進んでいます。ここに8Kを置くことは、放送波の公開については問題ありません。NHKの放送するものを確認いただけますので、まずこちらの方にも足を運んでいただきたいです。

余談になりますけれども、8Kのモニターに加えて、NHKの国際放送である「NHKワールドJAPAN」のモニターも設置させていただく計画です。1年前の北海道胆振東部地震の際でも、日本語の報道だけでは外国人の方への災害時の注意喚起などは不十分でした。英語など多言語で放送しているNHKワールドJAPANによって釧路に訪れた外国人観光客の方が災

害時に必要な情報を得ることができるようになると見込んでの取り組みです。こちらの方は私が言うて良いのでしょうか、萩原さん。5日オープンとなりましたので、今日、萩原さんにいていただいて助かりました。ありがとうございます。

さて、最後にNHKは、オリンピック・パラリンピックに関連して多くの特設ページをご用意しています。本日お話しした内容は、大半がこうした特設ページに載っておりますので、ぜひともお時間がある場合にご確認ご活用いただければと思います。

ここには、私たちのような中高年にはたまらない機能がありますのでご紹介いたします。これは「もう一度見たいオリンピック名場面」というバナーです。ここをクリックすると、1964年「東京大会」以降の夏季大会の名場面を動画で見ることができます。ですから本当に自分の好きなところ、「ここ見たい」という所をクリックすると見られるので、これは独断と偏見ですけれども、私が忘れられないと申し上げた1984年ロス大会をご覧いただければと思います。

ということで、ここにいらっしゃる方は、みんな私と同世代だと思います。本当に青春時代に見た映像がいまホームページで簡単に見ることができますので、ぜひお試しください。

間近に迫って来た『東京2020オリンピック・パラリンピック』、私たちNHKで働く者にとっては、単にスポーツと平和の祭典に止まりません。私たちは日本の社会が変わる大きな機会だと捉えております。NHKが示した視聴者の皆様との4つの約束は、NHKが公共メディアとしてふさわしい姿をお示しし、大会の後も日本社会の発展に役立つメディアであることをお示しする機会だと考えております。

本日は、ご静聴ありがとうございました。

[Return to Top](#)

[Return to Web Site](#)

(1984年「夏季オリンピック・ロサンゼルス大会」NHK配信動画鑑賞)